



風力発電設備の航空無線システムへの 電波干渉評価

海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 米本成人、本田純一



ブラウンシュバイクエ科大 Robert Geise

Institut für Elektromagnetische Verträglichkeit





回転している風車の影響



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology



研究の概要

- ・風力発電設備の航空無線システムへの影響を推量
 - スケールモデル実験による回転する風車の電波散乱、遮蔽
 - 得られた測定値から統計モデルを作成
 - 仮想的に航空無線システム、風車を配置した場合の影響の範囲を計算









スケールモデル実験







国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology



電波を散乱するのかを計測

使用した縮尺模型

・3次元風車模型(フル3D) 型式: Siemens SWT-2.3-130 高さ: 62m Scale: 1:144

> Ex.測定周波数 VOR 115MHz -> 16 GHz

送信アンテナから模型までの距離 10m->1440m

・平面風車模型(羽根は平面)
型式: Siemens SWT-2.3-130
高さ: 62m
Scale: 1:72

Ex.測定周波数 ARSR 1.3GHz -> 93.6 GHz

送信アンテナから模型までの距離 10m->720m 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology













電子航法研究所 © Electronic Navigation Research Institute, 2019

測定システム(VNA)の設定条件

- 模型のサイズと対象となる航空無線機器に合わせて周波数を選定
- 連続波モードで伝搬係数 S₂₁ を測定

測定シナ リオ	風車模型	対象航空無線 機器	スケール 周波数	測定した周波数 帯域
反射特性 透過特性	3D scale 1:144	VOR	16GHz	10GHz-20GHz
反射特性 透過特性	2D scale 1:72	Primary or Secondary Radar	72GHz	80GHz-110GHz





VOR模型の反射測定 - 停止時・回転時の違い



風車により反射波が発生、羽根の回転に同期して反射波強度が変化



電子航法研究所 ENRI © Electronic Navigation Research Institute, 2019

VOR模型の反射測定値 –ピッチ角の影響–

monostatic 16 GHz, horizontal polarization, orientation 45°,



time [s]

羽根のピッチ角の影響は少ない



電子航法研究所 EIRR © Electronic Navigation Research Institute, 2019

VOR模型の透過測定値





電子航法研究所 EINR © Electronic Navigation Research Institute, 2019

2次元模型による高域周波数帯測定





電子航法研究所 ENRI © Electronic Navigation Research Institute, 2019

風車の向きの違いによる散乱特性 at IIOGHz



time [s]



風車の向きの違いによる散乱特性at II0GHz(続き)



time [s]





2次元模型の透過測定





電子航法研究所 EINR © Electronic Navigation Research Institute, 2019





風車解析結果







風車を通る電波散乱の度数分布



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology

電子航法研究所 EINR © Electronic Navigation Research Institute, 2019





国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology 電子航法研究所 EIRR © Electronic Navigation Research Institute, 2019

正規化した電波散乱の累積分布関数 (仲上・ライス及び一様分布との比較)



レイリー分布+定常成分+一様分布



電子航法研究所 ENRI © Electronic Navigation Research Institute, 2019





風車設置シミュレーション





想定した設置シナリオ





送信点 九十九里の海岸に高さ30mの送信局 があると仮定



「究所 ENRI 些 Electronic Inavigation Research Institute, 2019

風車方向における上空3000ftの受信電力の変化



Best scenarioでは通常の減衰とほぼ同じ



電子航法研究所 ENR © Electronic Navigation Research Institute, 2019

上空3000ftの受信電力の強度分布





電子航法研究所 ENRI © Electronic Navigation Research Institute, 2019

欧州におけるアセスメントの必要性

・ | 次レーダーの場合

Zone	Zonel	Zone2	Zone3	Zone4
詳細	0-500m	500m-15kmでかつ レーダーの <mark>見通し内</mark>	I5km <mark>以上最大覆域以</mark> 内で、かつレーダの <mark>見通し内</mark>	最大覆域以内だが レーダの <mark>見通し外</mark> 、 あるいは最大覆域よ り外
アセスメントの必要性	保護領域	詳細なアセスメント	簡単なアセスメント	アセスメント不要

・2次レーダーの場合

Zone	Zonel	Zone2	Zone3
詳細	0-500m	500m-16kmで、かつレーダー の <mark>見通し内</mark>	l6km <mark>以上、あるいは</mark> レーダの <mark>見</mark> <mark>通し外</mark>
アセスメントの必要性	保護領域	詳細なアセスメント	アセスメント不要



電子航法研究所 ENR © Electronic Navigation Research Institute, 2019

まとめ

風力発電設備が航空無線システムに与える影響を評価する手法を検討

スケールモデル実験にて、風車の電波散乱を計測

回転する風車の散乱の頻度から、最大値、最小値を抽出

仮想的な風車と無線局の位置関係から影響のある範囲の特定

航法装置に対する風車の影響を評価する手法の確立

見通し外であれば評価不要、見通し内の場合は離隔距離に合わせて評価



